

3. 烏山地区の課題と取り組み

課題1 日頃からの備え～ケガ防止・備蓄・家族のルール/安否確認～

■意見

- 過去の防災の基本は火を消せだが、今は逃げることが重要である。
- 危険箇所（家(倒壊)、台所(飛んでくるものが多い)、プレーカー(自動では切れない))を把握することが重要である。
- 建物の耐震化、不燃化が遅れている。
- 怪我の防止策例…家具(特に食器棚)の転倒防止(新しい家具は優れもの)、ガラス飛散防止フィルム、スリッパ上履き、革手袋、ヘルメットの準備、普段から何も無いところで寝る、できるだけ物を置かない、建物は建設された年を確認する、耐震化、不燃化を進める、東京防災を読む等。
- 町会、自治会では備蓄が難しいため、個人で1週間生活できる程度の備蓄が必要である。
- 備蓄に適切な物、量が不明である。また、高層階の人は備蓄する為の買出しも困難である。
- 備蓄例…水2ℓ・12本、米(アルファ米)5kg、缶詰、カップラーメン、常備薬、応急箱、現金、保険証等、SOS用の笛、懐中電灯付ヘルメット、携帯ラジオ、ごみで出せるグッズ(ラップ、紙皿、割り箸)、室内履き、底が厚い靴、簡易トイレ、ビニール等)
- 持ち出し袋の例…常備薬、連絡先、ラジオ、アルミブランケット、水2ℓ、チョコレート、乾パン、革手袋、ヘッドランプ、新聞紙、嗜好品等)
- 燃料例…木炭、カセットコンロ、カセットボンベは調理、暖をとるなどであると非常に役立つ、使い捨てカイロ等)
- 停電～通電時の火事が心配である。
- 帰宅時の避難場所が不明である。
- 近所に誰が住んでいるのか、不明である。
- 啓発活動(東京防災等)で知識はあるが、行動に移すのが難しいため、行動してみるキャンペーンを実施したらどうか。(171体験キャンペーン、地域とのマッチング訓練等を単発でもいいから、実施してみる)

■地区としての今後の取り組みの方向性

①怪我をしないために出来ることを把握し、地域に周知する。

- 怪我の防止策を講じる。
Point…避難生活の以前の問題として、災害直後に死なない、怪我をしないことが何より重要である。
- 避難方法を事前に決めて置く。
◆避難方法例…各種避難場所の確認、安全な避難口の確保、年代別マニュアルの作成等
Point…震災時に助けてもらう為に、近所付き合いをする。
□自分の過ごしている、各場所で検討する必要がある。

②備蓄の正しい知識を周知していく。

- 備蓄は、個人単位で一週間分以上準備する。
Point…□日常生活で普段使う物を、+α少し多めに用意しておく。
□備蓄品は保管場所を決め、年に一回はチェックをする。
□宅配を利用して備蓄の負担を少しでも軽減する。
- 非常持ち出し用袋を準備する。
Point…□一人一つの持ち出し袋を持つこと。
□いつでも使えるところに準備する。
- 燃料の準備が重要

③家族のルール/安否確認の方法を周知していく。

- 避難ルールを決めておく。
◆ルール例…家族の集合場所は混雑が予想されるような場所は避ける（避難所等）、広域避難場所のワンポイントを家族ごとに決めておく、被災地以外で家族で集合できる場所を決めておく、家には無理に帰らないと決めておく等
- 連絡手段を決めておく。
◆手段例…田舎を中継地点として連絡を取り合う、高層マンションは隔離しやすいため、事前に情報の共有方法を決めておく、連絡は落ち着くまで取り合わない、災害時伝言ダイヤル 171 等
Point…回覧で周知するなどして、実際にキャンペーン的にみんなで体験してみる。
- 事前の準備をしておく。
◆準備例…たんす貯金等で現金を手元に用意、避難所の確認、子どもがいつでも逃げ込めることを頼める関係作り、子どもには写真、連絡先を持たず、日頃より敬愛活動をし、顔見知りを作る等
Point…日頃の活動が震災時には重要になってくる。

※日頃からの備えは、災害が起きてからでは遅く、文字通り平時（事前）の準備に掛かっている。そのため、1人でも多くの地域の方に取り組んでもらうためにも、周知が大事である。

■各団体の今後の取り組みの方向性

- 建物の耐震診断を実施し、必要であれば補強を検討する。【給田西住宅管理組合】
- 理事会でのD型ポンプ操作訓練を継続していく。【給田西住宅管理組合】
- 『東京防災』などを活用した防災知識の普及啓発を、実施していく。【烏山上町会】
- 非常用持出袋（中身の基本避難生活便利グッズ等を精査）を、紹介し準備してもらう様にする。【烏山上町会】
- 3箇所の町会防災倉庫に、水、アルファ米、簡易トイレ、ヘルメット等を備蓄している。今後も備蓄を充実させていく。【烏山中町会】
- 町会防災倉庫に薬品、ジャッキ、ポンプ、燃料を備蓄している。今後は未配備の水、食料等の備蓄を充実させていく。【親和会、烏山北住宅自治会】
- マグネットシートを作成してドアの裏面に貼るようにしている。今後も活動の継続・周知を徹底する。【北烏山みむね管理組合】

- ・家族のルール/安否確認を検討し、町会として周知する。【烏山下町会、千駄山町会】
- ・町会の会員数を増やすように努める。【児ヶ谷会、コーシャハイム芦花公園自治会、芦花公園団地自治会】
- ・マンホールトイレを実際に使用できるよう整備する。【コーシャハイム芦花公園自治会、芦花公園団地自治会】
- ・町会で新たな備蓄物品を購入する時は会費を募り、その物品を使用した訓練を町会独自で実施している。今後も備蓄の呼びかけを推進していく。【児ヶ谷会】
- ・備蓄する方法・場所・備蓄物品についての検討・充実化を図る。【コーシャハイム芦花公園自治会、烏山下町会、千駄山町会】
- ・テーマ別（避難所編、トイレ編など）の防災ガイド（リーフレット等）を作成していく。【烏山地域の力を集める会】
- ・商店街や企業（事業所）用の防災計画・防災マニュアルの作成支援をする。【烏山地域の力を集める会】

課題2 在宅避難者対策

■意見

- ・自分の安全を確保した上で、近所の安否確認が大事である。
- ・一人世帯が被害にあった場合（家具等の下敷き、ドアの開閉）の確認方法についてどうするか。
- ・災害時のライフライン断絶後の区民への連絡手段を確立しておきたい。
- ・道路が通行不能な場合を考えておきたい。
- ・在宅避難の知識（特に備蓄知識）が不足している。
- ・食料、テント、寝具等の備えが不足している。
- ・防災行政無線の用途を知りたい、周知したい。

■地区としての今後の取り組みの方向性

①平時から周囲の人とのコミュニケーションを図れる機会を作る。

- ・日頃からの近所のコミュニケーションから始める。
- ・地域のイベント等を通じて、日頃からの顔見せ（知り合いを増やす）をする。

②情報伝達手段は複数の手段を確立する。

- ・正否が不明な情報に惑わされず、正しい情報を伝達する方法を予め決めておく。
- ・区、町会の掲示板を活用する。
 - ◆例…物資、避難所、ライフラインの最新情報等
- ・情報は細目化する。
- ・情報入手方法を周知する。
 - ◆例…定期的な掲示、各自見に行く、掲示板を見た人(地域の当番)からの周知
- ・烏山区民センター前広場を情報提供の拠点として整備する。

③在宅避難における正しい知識を習得、周知する。

- ・在宅避難の方法として、自宅避難生活ができる人は、自宅で生活することを周知する。
 - ◆例…トイレに水を流す時は、排水接続の確認が出来るまで流さない、在宅避難者の内、無事な人には、自宅から地域で統一された目印を掲示してもらう。
- ・避難所には何も無いとPRする。また、デメリットが多いため、日頃備蓄しておくべきものを把握しておく。
- ・日頃の備え（備蓄等）をすることが重要と、PRする。
- ・町会独自に、必要な備蓄物品を確保するための倉庫を準備する。
- ・物資伝達方法のマニュアル作成を検討する。
- ・避難所に届いた支援物資の配給システムを創る。
 - ◆例…備蓄物資の配分ルールを整備しておく。

■各団体の今後の取り組みの方向性

- ・給田小学校で保護者や地域の方を対象に実施している、防災講座を継続し、在宅避難の方法等を周知していく。【給田西住宅管理組合、給田小学校PTA】
- ・在宅避難する為に必要な物品（水・食料・簡易トイレなど）の備蓄を推奨するなど防災知識の普及啓発を実施していく。【烏山上町会】
- ・町会名簿（改定版）の作成を進める。【烏山中町会、親和会】
- ・町会全戸に簡易トイレの配布を実施していく。【烏山中町会】
- ・災害時に対応できるように、敬老の日に75歳以上の方にお祝い品を届けるような活動を今後も継続する。【親和会】
- ・町会全戸に毎年1回、水、ビスケット、簡易トイレの配布を今後も継続していく。【烏山北住宅自治会】
- ・プライバシーに配慮しながら、興味・趣味等のツールを活用し、町会のイベント等に参加してもらい、日頃から交流を図る。【烏山下町会、千駄山町会】
- ・町会内のコミュニケーションを図るために、日頃からできるような回覧・敬老の日などのイベントで祝い品の贈呈・町会総会等を積極的に活用する。【児ヶ谷会】
- ・町会独自で作成している「安心連絡網」の加入促進に努める。【コーシャハイム芦花公園治会】
- ・町会独自で作成し、既に自治会全戸に配布している「安否確認カード」の周知を徹底する。【芦花公園団地自治会】

課題3 避難行動要支援者・要配慮者・けが人等の対策

■意見

- ・情報がないため、所在が不明である。
- ・プライバシーの問題がある。個人情報保護を盾に要支援者の情報が得るのが困難である。
- ・実態を町会、地域でどう知っておいたらよいか。
- ・日頃からの見守りが重要である。
- ・自治会防災組織に本当に見回りはできるのか。

- ・様々な要支援者（歩けない人、高齢者、けが人、高層ビル在住者）にどのように対応するか。
- ・特別な対応をするために必要な物品をどうするか。

■地区としての今後の取り組みの方向性

①災害時避難行動要支援者・要配慮者に関する協定を拡大する。

- ・敬老の日などを利用して、お祝い品の配布時などに、現況を聞き、情報を更新する。
- ・会費を集めるときなどを利用して、情報を入手する。

②支援方法に関して検討する。

- ・近隣及び担当決めによる対応とする。
- ・応急救護訓練の積極的な参加、ヘルプカード、安心カード等の活用をする。
- ・要援護者の安全が確保されている場合は、自宅のベランダからタオルを垂らしてもらうなど目印を出す。
- ・町会、自治会のイベント、日常生活を通じて、コミュニケーションを図っておく。

③支援する側の人手を確保する。

- ・町会、自治会に加入するメリットをイベント等を通じて伝えていく。
- ・地域の若い世代に対して、地域のイベントや避難所運営訓練などに積極的に参加してもらい、近所の輪を広げておく。
- ・若いマンパワー（学生、ボランティア等）を活用できる仕組みを創る。

■各団体の今後の取り組みの方向性

- ・年1回の団地行事にて実施している名簿の確認を継続する。【給田西住宅管理組合】
- ・団地内でエリアを決めて、「見守り隊」が様子を見に行くルールを継続していく。【給田西住宅管理組合】
- ・若い世代による協力が無ければ実施不可能であるため、小・中学校、PTAの協力が得られるよう働きかけていく。【烏山上町会】
- ・ペット同行避難者、乳幼児を抱えた避難者などの、災害弱者と言われている方々への対応策も検討し普及啓発していく。【烏山上町会】
- ・災害時避難行動要支援者・要配慮者に関する協定を既に締結している。【烏山松葉通住宅自治会、あやめ会、親和会、千駄山町会、児ヶ谷会、パークアベニュー芦花公園自治会】
- ・敬老の日などのイベントを通じて、日頃から見守り活動を実施する。【烏山下町会、千駄山町会】
- ・福祉作業所と連携・協力関係を築いていく。【烏山下町会】
- ・下町まつりを活かして地域の活動人口を増やしていく。また、一層の地域の活動人口増加のため、中学生等をイベントのボランティアとして募ることを検討する。【烏山下町会】
- ・安心カードの普及に努めている。また、日頃からのコミュニケーションを図っていく。【千駄山町会】
- ・災害時避難行動要支援者・要配慮者に関する協定締結に向けての活動を進める。【コーシャハ

課題 4 避難所運営

■意見

- 避難所運営本部員だけでは、人手不足で運営ができない。
- 避難所では、避難者の協力してくれない人の取扱いが困難である。
- 避難者が交流を図れる場（ラジオ体操等）を設け、コミュニティ分断の軽減・集団意識の創出、また、健康に過ごせるよう心がけると良い。
- 避難者は2－3日経つと、要望や不満を強く主張する可能性があるため、みんなが避難者という意識作りや、ルールの周知を徹底する。
- 不足している物品が多くある。
物品例…防災ベスト、マンホールトイレの水汲みポンプ等
- 消火器や消火栓の場所を知らない人が多い。
- ペットは避難者スペースと共同で生活できない・犬猫以外のペットの問題をどうするか。
- 町会や地域で防災に関する基礎知識や情報確認の手法をどのように行うか。
- マンホールトイレ、仮設トイレの訓練が不十分である。
- マンホールトイレの水貯めは手動では大変である。
- 担当する避難所まで行けるか。

■地区としての今後の取り組みの方向性

①避難所内における協力体制を構築する。

- 協力してもらえそうなこと(運搬、設営、確認作業など)を確認し、周知する。
◆例…マンホールトイレの運営、清掃活動、自宅から水、食料の持ち寄り等
- 運営側、避難者側問わず、自主的に動く仕組みを検討する。

②平時～避難所運営時は、ルールを整え地域の人に周知する。

- 生活する上で、新たに決定しなければならない事項は協議で決定する。
◆例…部屋割り、プールの水の活用方法等（浄化して飲料にできないか）
- 避難所に関しての広報は正しい情報と共に、避難所はできる限り利用しない広報を併せて行う。（公助が遅い、支援されるだけでなく、支援もしないといけない、来てもいいことはないため在宅避難できるように事前にPRする、疎開した方が安全等）
- 避難所の概要の周知のため、事前に避難者カード等を作成、配布する。

③協力団体を検討し、協力者を募る。

- ◆例…一時的に避難所や倉庫にできる施設等に交渉を図る。

■各団体の今後の取り組みの方向性

- 避難所でのボランティアを増やすため、出来ること別に色分けした「できますゼッケン」を作成したため、今後も避難所運営訓練で活用し、周知していく。【給田西住宅管理組合、給田小学校PTA】
- 災害時の訓練について検討を進めながら、訓練を今後も継続していく。【烏山中町会、親和会、烏山北住宅自治会、北烏山みむね管理組合】
- 今現在避難所運営訓練に携わっている人は今後も訓練を継続してもらおう。また、若い世代の人員の確保に努め、訓練に参加するよう促していく。【烏山上町会、烏山下町会、千駄山町会、児ヶ谷会、コーシャハイム芦花公園自治会、芦花公園団地自治会】